

## 021 みやざき大歌会～今日、君も短歌を好きになる。

開催日：令和3年7月10日(土)

開催場所：宮崎大学附属図書館(宮崎市)



## 実施状況

県内の中高大生を対象とした短歌イベントを、宮崎大学附属図書館とのコラボ企画として実施しました。

前半は、作家としても活躍されている歌人の東直子さんと、写真歌集「うたらば」などを手がけるコピーライターで歌人の田中ましろさんのトークイベントをライブ配信。お二人の学生時代や短歌との出会い、仕事や初期の作品の解説についてお話しがありました。

後半は、中高大生を2つのグループに分け、東さん・田中さんを交えて歌会(題「音」)を開催。お互いの作品一首一首をじっくり鑑賞し意見を交わし合いました。参加者にとっては学校や年代を超えての交流に刺激を得ると同時に、実際に会って話し合うことの良さを再確認する時間ともなったようです。東直子賞に「カフェラテの氷がカランと音立てて警戒レベルは継続される」(谷山隼斗・宮崎商業高校)、田中ましろ賞に「大雨にハウスに音の響く中今日もメロンと会話する父」(藤田麻生・紙屋中学校)が選ばれました。

## 参加校

紙屋中学校(小林市)、宮崎大宮高校、宮崎商業高校、宮崎国際大学、宮崎大学の生徒・学生(約20人)

## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、宮崎大学附属図書館

## 022 光と神話の世界

開催日：令和3年9月11日(土)

開催場所：メディキット県民文化センター 演劇ホール(宮崎市)



## 実施状況

映像や光で日向神話の不思議な世界を演出。約430人の来場者が幻想的な空間に引き込まれました。まずは本県で活動する音楽ユニットによるウエルカム演奏会からスタートしました。

「古事記幻想」は、宮崎の風景とダンスや合唱ステージ。西都市出身のカウンターテナー米良美一さんや元宝塚歌劇団の舞咲りんさんが出演しました。

神話ゆかりの名勝が映像に映し出されると、神話の語り部たちが「ニニギノミコトとコノハナサクヤヒメ」や「イザナギの禊祓」などの神話を情感たっぷりに語り、天孫降臨の地の一つといわれる高原町の狭野神社に伝わり、500年以上の歴史を持つ狭野神楽が勇壮な夜神楽の舞を披露しました。

ファイヤーダンスやエレクトリックダンスを行うパフォーマンスチーム「かぐづち」(東京都)は、LEDの光と炎を駆使した圧巻のダンスを披露。ダイナミックな極彩色のライトパフォーマンスで、会場を楽しませました。

## プログラム

ウエルカム音楽会／大西洋介(キーボード)、河野義仁(ウッドベース)、物部聖子(篠笛)▽NHK宮崎放送局プレゼンツ「古事記幻想」／米良美一、舞咲りん、宮崎市バレエユニオン▽日向神話の語り部／語り部(宮崎県立図書館)、サラみやざき▽夜神楽／狭野神楽保存会▽ダンス／Performing Arts D.O.C「乱翔舞令(ZERO)」▽光のパフォーマンス／雷光炎舞「かぐづち」

## 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、NHK宮崎放送局▽協力=宮崎県立図書館、宮崎県総合博物館、宮崎県埋蔵文化財センター、公益財団法人宮崎県立芸術劇場

## 023 キッズプレスプロジェクト 池上彰氏特別講演会

開催日：令和3年9月12日(日) ■ 開催場所：メディキット県民文化センター 演劇ホール(宮崎市)



### 実施状況

キッズプレスプロジェクト(KPP)の特別講演会に、フリージャーナリストの池上彰さんがリモート出演。「ぼくが記者になったわけ～若者たちへ～」をテーマに、自らの経験を交え、記者の役目や魅力について講演しました。

池上さんは「歴史は毎日の報道の積み重ね」と説明。記者になったきっかけを「小学6年の時、家の近くの本屋で記者の仕事について書かれた本を読んだこと」と振り返り、子どもたちに「今持っている夢ややりたい仕事へのあこがれを持ち続けてほしい」とエールを送りました。

講演会後には、KPP記者代表の県内小中学生4人と、都城西高校新聞委員会5人が池上さんに質問する「記者会見」も開催。「なぜ物知りなのか」などの質問に、「全国紙や地方紙など12の新聞を読んでいます。見出しから起きていることを把握。新聞を読む、新聞をきっかけに勉強する、この繰り返しです」と答えていました。こども記者たちは、「記者会見」の内容を記事にまとめ、9月14日付の宮崎日日新聞朝刊に掲載されました。

新型コロナのため池上さんは来県できず、無観客での講演会となりましたが、講演の様子はオンラインで配信されました。

### 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、宮崎日日新聞社、一般社団法人宮崎県教職員互助会

## 024 キッズプレスプロジェクト

開催日：令和3年4月～12月 ■ 開催場所：県内各地



### 実施状況

県内の小中高生が新聞記者の仕事を体験するもので令和元年度から実施。令和3年度は11名のこども記者と7校の高校生記者が取材をしました。県内のさまざまな文化や身近な話題を取材し、その成果は宮崎日日新聞本紙と、宮日こども新聞に随時、掲載されました。

こども記者の坂本小学校6年(五ヶ瀬町)の西川皓悠さんは、地元五ヶ瀬町に伝わる伝統芸能「荒踊」を取材。「荒踊の館」を訪ねたり、保存会長に話を聞いたりして、原稿をまとめて紙面に掲載しました。

高校生記者の都城西高校新聞委員会のメンバーは、都城地区でお茶と焼酎の普及と発展に取り組む3人の職人を取材。現場での撮影から執筆までを体験し、職人たちの話に加え、高校生らしい熱いメッセージも添えられた記事が完成しました。

本プロジェクトは令和元年度から3か年度実施し、42名のこども記者と8校の高校生記者、あわせて168名が活動しました。

### 参加者

【こども記者】森あやめ、山口拓海、上山智大、池田智美、小笠原珠了、坂本玲、福留千颯、久田稟子、橋本真武、橋本彩里、西川皓悠

【高校生記者】都城西高校、宮崎大宮高校、都城泉ヶ丘高校、富島高校、日南学園高校、高鍋高校、明星視覚支援学校

### 主催

文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会、宮崎日日新聞社

## 025 まちなか文化祭

- 開催日：令和3年9月25日(土)
- 開催日：令和3年9月20日(月)～10月3日(日)
- 開催日：令和3年9月27日(月)～10月17日(日)
- 開催日：令和3年9月4日(土)～10月17日(日)
- 開催場所：宮崎会場 宮崎市中心市街地(中止)
- 開催場所：都城会場 Mallmall まちなか広場など
- 開催場所：延岡会場 駅まちエリア内の空き店舗など
- 開催場所：日南会場 堀川夢ひろばなど



### 実施状況

県内各地の商店街やまちなかを舞台に、商工団体やまちづくり団体が中心となり、地域に密着したさまざまなイベントが企画、開催されました。

宮崎会場は「まちの“わ”を創る」をコンセプトに、県内アーティストや神楽、吹奏楽による多彩なステージのほか、障がい者アート展や作品制作のワークショップを企画。総合フェスティバル「いざや、みやざき宵まつり」とコラボした合同抽選会も予定していましたが、新型コロナにより中止となりました。

都城会場では、子育て支援団体ジョイナスが中心となり「まちなか文化祭 in 都城」を開催。着物の過去、現在、未来を表現したファッションショーや、北諸地域で行われていた結婚式「御前迎(ごぜむけ)」が再現されました。

同市立図書館では、芸術家の又木啓子さん(都城市出身)が制作した「世界一大きなまあい絵本」の展示や絵本作りのワークショップが実施され、期間中、約580人が来場しました。

延岡会場は、J R延岡駅周辺の商店街の関係者たちでつくる延岡まちなか文化祭実行委員会が主催して「まちなか Enjoy 文化祭」が、駅周辺のエリアを会場に開催されました。

山下新天街内の空き店舗では「商店街写真展」を開催。30～40年前の同市内各地の商店街の懐かしい写真や沿革等が紹介され、古き良き時代の商店街の様子を垣間見ることができる展示会となりました。

新装オープンや記念セール of 広告として活用されてきた、「チンドン屋」の文化について知ることができる「チンドン屋・イン・レジデンス」など、見どころの多い催しとなりました。

日南会場では、港町として栄えた油津の歴史を体験できるイベントや展示会が開催されました。

「まちなか四半の大会」では多くの参加者が四半的に挑戦。日南今昔写真展では、地元の写真家の川床重弘さんによる日南の自然や町並みを切り取った作品が展示されたほか、日南の焼酎文化について知ることができるイベントなども開催されました。

最終日には、樹齢120年の飮肥杉で作られた夢見橋で吾平津神社の夜神楽が奉納され、文化祭を締めくくりました。



### 主催

(4会場共通)文化庁、厚生労働省、宮崎県、宮崎県教育委員会、第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会  
 (宮崎会場) 街市実行委員会、(都城会場) ジョイナス、  
 (延岡会場) 延岡まちなか文化祭実行委員会、(日南会場) 日南まちづくり株式会社